

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)

【公表番号】特表 2019-529167 (P2019-529167A)

【公表日】令和 1 年 10 月 17 日 (2019.10.17)

【年通号数】公開・登録公報 2019-042

【出願番号】特願 2019-512780 (P2019-512780)

【国際特許分類】

B 2 9 B 15/08 (2006.01)

D 0 4 H 1/58 (2012.01)

B 2 9 K 105/06 (2006.01)

【F I】

B 2 9 B 15/08

D 0 4 H 1/58

B 2 9 K 105:06

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 3 日 (2020.7.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

不織マットであって、
複数の強化繊維と、
バインダ樹脂、カップリング剤、及び腐食抑制剤を含むバインダ組成物と、
を含み、
前記バインダ組成物は非腐食性であり、
前記バインダ樹脂は、熱硬化性材料、熱可塑性材料、又はそれらの組み合わせを含み、
前記不織マットは、100% スチレンモノマー中に 10 分間浸漬された後、少なくとも
1.356 J (1.01 b / f t) の引張強度を示し、
前記腐食抑制剤は、トリエタノールアミンであり、
前記腐食抑制剤は、前記バインダ組成物中に、前記バインダ組成物内の全固形分に基づ
いて、0.05 重量% から 15.0 重量% まで存在する、ことを特徴とする、不織マット
。

【請求項 2】

前記複数の強化繊維は、ガラス繊維、合成繊維、及び天然繊維の少なくとも 1 つを含む
ことを特徴とする、請求項 1 に記載の不織マット。

【請求項 3】

前記複数の強化繊維は、ガラス繊維であることを特徴とする、請求項 1 に記載の不織マ
ット。

【請求項 4】

前記複数の強化繊維は、チョップドガラス繊維及び合成繊維の混合物であることを特徴
とする、請求項 1 に記載の不織マット。

【請求項 5】

前記バインダ組成物は、消泡剤をさらに含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の不織
マット。

【請求項 6】

前記カップリング剤は、シランカップリング剤を含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の不織マット。

【請求項 7】

前記熱硬化性材料は、アクリル系材料及びウレアホルムアルデヒド材料の少なくとも 1 つを含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の不織マット。

【請求項 8】

前記熱可塑性材料は、エチレン酢酸ビニルを含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の不織マット。

【請求項 9】

前記バインダ樹脂は、前記全固形分に基づいて、50.0 重量%から100 重量%までの前記熱可塑性材料、及び0 重量%から50.0 重量%までの前記熱硬化性材料を含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の不織マット。

【請求項 10】

前記不織マットは、前記腐食抑制剤を有さない他の同一の不織マットと比較すると、100 %スチレンモノマー中に10 分間浸漬された後、引張強度において少なくとも12 %の増加を示すことを特徴とする、請求項 1 に記載の不織マット。

【請求項 11】

前記不織マットは、前記腐食抑制剤を有さない他の同一の不織マットと比較すると、硬化後、いずれの繊維白化も示さないことを特徴とする、請求項 1 に記載の不織マット。

【請求項 12】

熱硬化性樹脂で含浸された少なくとも1つのロービングと、
請求項 2 ~ 11 の何れか1 項に記載の不織マットと、
を含む、引抜成形された複合製品。